

週刊 かわら版

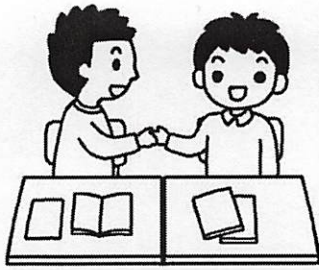
生徒と保護者のための

入学おめでとう

入学おめでとうございます。高校生になることは難しくはありません。高校生となることは難しいです。

ワイワイキラキラした生活を思い描いて入学。新しいクラスでの初日の朝。「どんな会話をしよう、誰と昼ごはん食べよう?」と悩む人っているアンケートでは9割以上の人が経験しているようである。

みんなそれぞれ、恥ずかしくて、心の扉を全開にはしていないけど、ただ完全に鍵だけはオープンにしておきたい。そう、今話題の「ひよっこりはん」みたいに、誰かの顔が見えたら、見えた瞬間にこっぴど顔を赤らめ出す。そうすることで、「よろしく」の



先見コーナー

4/06(金) ○始業式 ⇒【スクールバス(SB) 12:50】

4/09(月) ○入学式 ⇒補助員のみなさんありがとう

(8:30体育館前に集合です)

4/10(火) 【SB16:00発】

○新入生オリエンテーション(～18日)

○制服きこなしセミナー(5限)

○第1回実力考査

○進路マップテスト(2・3年生)

○2年eブレップ始業式

4/11(水) 今週は【SB16:45発】(～4/16)

○実力考査 ○SPIテスト

4/13(金) ○スクールカウンセラー来校日

4/15(日) ○春季情報処理技術者試験

4/18(月) ○進路マップ(1年専門系)

4/17(火) ○家庭訪問・教育相談週間(～20日)

【SBの出発時間は次号で示します】

○検尿(～19日)

4/18(水) ○第1回代議員会

4/19(木) ○レントゲン検査 ○第1回情報祭実行委員会

4/20(金) ○3年進路希望調査

次のかわら版第2号は4月13日(金)に発行予定です。学校ホームページにも転載しています。



身体測定

日程
4月13日(金) 1年生
場所
体育館

服装

○夏の正課体育服
但し1年生は中学の体育服
または華美でないもの

○メガネやコンタクトの使用
者は必ず着用しておくこと
(裸眼での測定はしません)

スクールカウンセラー

本学園には「ことばの支援センター」という相談施設があります。毎週月曜日、午前、臨床心理士の先生が来校しま

す。

ご希望の日の一週間前までに担任または直接教育相談部までお電話ください。教育相談部で日程調整をします。当面の来校日は次の通りです。

- 4月13日(金)
 - 4月20日(金)
 - 4月27日(金)
- 最終受付時間は11時30分。

突発的な予定の変更もありま

情報

学校には公的な募集やコンクール・コンテストのお知らせが届きます。その公文が一階エレベーターホール横の掲

示板に貼り出されます。その情報をこのコーナーではお知らせします。(下段に続く)

○マイクロボコン
高校生大会
12月22日 開催

○鹿児島ハイスクールカップ
ダンスコンテスト
4月30日 開催

※外部のコンテストや大会に出場する場合には必ず、所定の届けを済ませてください。

最近のHP更新

かわら版には生徒の活躍は掲載しません。目立った活躍だけが成果ではないと考えるからです。HPでそれぞれ確認してください。

- 吹奏楽部・谷山公演
- メカトロ部
- インターハイ看板更新
- 新学期から大人気!
- 学食のパン(動画)
- 修了式
- 水泳女子・金メダル2個
- 自動車専攻科・修了式

編集後記

「こんなにも、高校って配布プリントが少ないの?」来週は何が? 「学校のことを全然わからない!」という声を聞きました。

この反省から始めた「かわら版」の発行です。毎週金曜日の発行を目指しています。金曜日には子どもさんにぜひ催促してください。

清流

「借りたら 返そう!」

入学式も済み、本館脱靴場近くにその掲示を見た人も多いことだろう。この掲示と共に、真新しい折り畳み傘が最近、何本も置かれた▼突然の雨に困ることがよくある。そんな時に頼りにする所があるとうれしい。数年前から相談室でも忘れ物の傘を数本置いている。多くの生徒がその傘を頼りにしてくれた▼「恩送り」ということばがある。自分が受けた恩を、与えてくれた人に返すのではなく、恩を他の人に送っていくのである。一人の受けた恩を三人に送ることで、ねずみ算式のように温かさが増えていく▼戦後、ルーズベネディクトによって書かれた報告書「菊と刀」の中で、「万分の一の恩返し」として、「日本人は受けた恩は必ず返さなければならぬ」と考えている」と分析している。返せなかった恩はどうしたら良いのだろう。それを誰かに送るのが、返せなかった恩に対する「鎮魂の行」でないか▼公共交通機関の車内にも「かえるの傘」が設置されている。残念ながら、返ってくる傘が少ないと新聞紙上で見た▼本校の傘は自分の「助かった!」を次の人に送る、そんな温かい心の象徴として、受け継がれ、伝統として育てて欲しい。